

《ワッハ上方の歩みと今後の方向性について（案）》

ワッハ上方の設置理念

大阪府立上方演芸資料館条例（設置目的）

上方演芸の保存及び振興を図るとともに府民に上方演芸を学び親しむ場を提供し、もって大阪文化の発展に資する

大阪府文化振興計画（おおさか文化プラン）

「大阪文化の再発見と情報発信」を進める上での拠点施設

設置の経緯・運営状況等

【設置経緯】

平成元年 故砂川捨丸氏の遺族から氏ゆかりの鼓を受領
 平成2年 上方演芸保存振興検討委員会（会長：井上宏 関西大学教授）を設置
 平成4年 検討委員会が基本構想（上方演芸保存振興事業の拠点施設の設置）を提言
 平成5年 資料館の立地場所を決定（大阪市中央区難波千日前）
 平成6年 基本構想を受け、府が基本計画を発表
 平成8年 府立上方演芸資料館オープン（11月15日）

【運営体制】

年度	形態	館長
H8～10	管理運営委託	粕林利男（元朝日放送プロデューサー）
H11～13	（（財）大阪府文化振興財団）	井上 宏（関西大学名誉教授）
H14～17	府直営	有川 寛（元読売テレビプロデューサー）
H18	指定管理者	伊東雄三（毎日放送プロデューサー）
H19～	（ニューウエーブ日東大阪）	

【施設概要】

・所在地：大阪市中央区難波千日前12-7 YES・NAMBAビル4階～7階
 ・展示室（演芸ライブラリー・小演芸場含む）（約1100㎡） ワッハホール（約1000㎡） 事務室、
 収蔵庫（約260㎡）・レッスンルーム（約90㎡）《借受延床面積3,591.98㎡》

【運営経費】 多額の費用

・賃貸借料 約2億8千万円/年
 ・運営委託料 約1億2千万円（指定管理委託料） 人件費、管理費、事業費など

【運営状況】 入館者数が横ばい。

・入館者（展示室/ホール）数の推移（過去5年間）

年度	展示室	ワッハホール	レッスンルーム	小演芸場	合計
16	56,875	74,988	17,045	8,686	157,594
17	55,959	69,741	14,685	10,030	150,415
18	51,856	68,154	14,693	10,225	144,928
19	52,703	69,915	15,295	10,396	148,309
20	57,683	70,948	17,553	12,631	158,815

・展示室入場者の満足度（H19）

展示の感想 良い62%、普通30%、悪い1%、無回答7%
 また来館したいか 思う72%、思わない14%、どちらでもない19%、無回答5%

財政再建プログラム(案)における「見直しの方向性」

他の府有施設等に移転、規模縮小

- ・展示機能及び演芸ライブラリー機能のみ存続
- ・貸主との契約期間である平成22年度末までに移転

《見直しの理由》

- ・約5万件の寄贈資料の保存・展示は必要
- ・現在の場所で、すべての施設機能を維持するには多額の費用が必要

ワッハ上方が今後も果たすべき役割

- 1 大阪独自の文化である「上方演芸」に関する資料を散逸させない
- 2 収集した資料を活用する（展示・ライブラリー・レファレンス）
 「公演」「育成」は民に委ねる

資料の収集・保存（平成20年度末時点 59,757点）

現在の収蔵資料約6万点の保存
 ・多くの方から寄贈された資料を散逸させない
 貴重な資料の収集継続
 収蔵資料のデジタル化の検討（新規）

資料の活用（展示・ライブラリー）

常設展・企画展（館内）
 ・企画展の例：上方演芸殿堂入り表彰（20年度までに計40組64名） など
 ・現在活躍中の若手芸人の資料展示の検討（新規）
 ・高座体験コーナーの設置を検討（新規）
 館外展示・他施設との連携
 ・彦八まつり など
 ・他展示系施設等への資料貸出しや事業連携など
 演芸ライブラリー
 ・映像等資料については、来館者サービスはもとより変遷する演芸の活きた記録として今後も収集
 ・映像等資料はデジタルデータとし、資料の劣化防止や来館者の利便性の向上を図る
 ・発行部数が少なく再販されることも少ない演芸関係書籍は、できる限り収集

レファレンスサービス

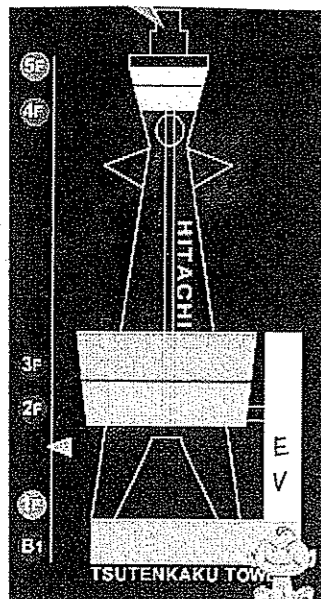
全国唯一の演芸資料館として、学芸員を配置
 ・資料の分類・評価や展示の企画・構成に加え、研究機関・報道機関からの照会に対応

【立地条件】 一人でも多くの方に上方演芸への理解を深めてもらえる場所であること
 府有施設など賃借料が不要である、若しくは、できるだけ安価な物件であること
 別紙(案)のとおり

【運営】 公の施設として位置付け、公募による指定管理者が運営
 入館無料とし、より多くの方に気軽に上方演芸に触れていただく（入館料の扱いについては調整中）
 上方演芸の再発見、新たな演芸ファンの開拓

ワッハ上方の移転先候補について（案）

施設名	移 転 案			現地存続 【指定管理者：ニューウエーブ日東大阪】 （所有：吉本興業株式会社）
	通天閣（案1） 【運営主体：通天閣観光株式会社】	ピースおおさか（案2） 【運営主体：財団法人 大阪国際平和センター】	大阪歴史博物館（案3） 【指定管理者：財団法人 大阪市文化財協会】 （設置者：大阪市）	
活用可能面積	展示室 300㎡（2F）（通路含む） 収蔵庫 未定 ライブラリー 100㎡（2F） 事務室 15㎡（2F） ※レイアウトは今後検討	展示室 200㎡（3F） 収蔵庫 未定 ライブラリー 160㎡（3F 既設映像コーナー） 事務室 新設（3F） ※レイアウトは今後検討（現在、展示スペースとして使用）	【大阪市の考え方】 ・ワッハ上方の移転先としての位置付けは不可 ・歴博のコンセプトに合致する資料を館蔵品として受け入れ、博物館の展示等で活用する	展示室 900㎡ 収蔵庫 260㎡ ライブラリー 150㎡ 事務室 600㎡ ※現在、ホール（1000㎡）・レッスンルーム（85㎡）あり
来館者数	1,100,000人	70,000人	200,000人	158,000人（うち展示室57,000人）
開館時間 入館料	9:00～21:00（年中無休） 【現在の展望台入館料】 大人600円、大500円、中高400円、小300円	9:30～17:00（休館 月曜・祝日の翌日・年末年始等） 【現在のピースおおさか入館料】 大人250円、高150円	9:30～17:00（休館 火曜・年末年始） 【現在の大阪歴史博物館入館料】 大人600円、高大400円	9:30～17:00（休館 水曜・年末年始） 【現在のワッハ上方展示室入館料】 大人400円、高大250円、小中120円
費用	・賃借費用 18,900千円（試算） ・運営費用 66,500千円（試算） ・収蔵庫費用 6,500千円（試算） ・造作・移転費用 今後積算	・賃借費用 8,000千円～10,000千円（試算） ・運営費用 54,500千円（試算） ・収蔵庫費用 6,500千円（試算） ・造作・移転費用 今後積算	—	・賃借費用 現在278,128千円（減額可） ・運営費用 現在115,196千円（減額可）
メリット	・通天閣を訪れる膨大な観光客の来館が見込める。 ・年中無休、12時間営業。 ・戦前・戦後に演芸人が多く暮らすなど、演芸ゆかりの地である ・地下ホール（200席程度）あり	・ピースおおさかを訪れる社会見学などの団体客や大阪城を訪れる観光客の来館が見込める。 ・「笑いと平和」という新たなコンセプトを創出し、ピースおおさかと連携した新展開可 ・講堂（250～300席）あり	・歴博の一般入館者や社会見学などの団体客20万人に展示を見てもらえる ・歴博資料として収集し、必要に応じて特集展示等で活用する	・ライブラリー継続可
課題	・構造上、内部に柱が多い ・収蔵スペースの確保	・ワッハ上方部分への無料入場の動線確保 ・収蔵スペースの確保	・すべての資料の受入れ不可 ・上方演芸コーナーの設置不可	・多額の費用（賃料・運営費） ・映像コンテンツ・展示造作の陳腐化 ・映像等機器の更新を要する
運営形態	・公の施設として入居（指定管理）	・公の施設として入居（指定管理）	—	・公の施設として指定管理



■移転案共通課題

○各放送局の意見

放送事業者として担うべき役割を認識し、府民・利用者への責務としても、移転に伴う環境・条件が整えば継続して業務を担っていきたいが、

- ①移転案は、演芸振興の展望や、演芸資料館としての環境・運営維持が不安
- ②ライブラリーへの放送番組資料・展示室への写真映像資料の管理には、著作物・著作権の専門性を有する責任ある管理体制が不可欠
- ③芸能プロダクションや寄贈者の許諾、運営懇話会委員など関係者の同意が得られるか疑問

であり、新たな指定管理（公募）で運営・管理が第三者の手に渡ってしまう可能性を含め、その条件・環境が不十分で、ライブラリーへの放送番組資料・展示室への写真映像資料の提供・協力は、極めて難しい。

○家主（吉本興業）との調整

- ・退去期限（平成23年3月末日には引渡し）
- ・容積率〔文化施設ボーナス〕のクリアが必要
- ・原状回復費用 調整中
- ・損害賠償を求められる可能性